

令和4年度 いのちの授業 事例集（中学校） 【総合的な学習の時間】

掲載数

68

| 地区 | 学年 | 教科等 | テーマ | 内容 | 参考事項（講師・教材等） |
|-------|-----|-----------|----------------------------|---|---|
| 1 川崎市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | LGBTqについて | Rebitという団体から講師を派遣していただき、LGBTqについて講演をしていただいた。LGBTqの用語の説明から、ご自身の体験や思いをお話いただき、LGBTqの悩みを打ち明けられた時の他者を思いやる行動について、またひとりひとりの価値観の違いなどを様々な例を用いて説明していただいた。この講演を通じて、性の多様性と価値観の多様性を学ぶことができた。 | Rebit |
| 2 川崎 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 健康教育「性に関する教育」 | 2年生では「からだところの変化」「思春期における悩みや不安の対処」「LGBTQ」について学習した。思春期には性ホルモンの分泌により、からだが変わる。しかし変化の仕方やタイミングは人それぞれであることを学んだ。また、性には「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「性別表現」の4つの要素があり、「自分らしさ」を大切にしながら生きることを確認した。3年生では「性感染症」「妊娠・出産」「デートDV」について学習した。「自分らしさ」とともに「周りの人が持つその人らしさ」を尊重しながら、最良の選択ができるような意思決定・行動について考えた。 | 川崎地区健康福祉ステーション 助産師（中2、中3で実施） |
| 3 川崎市 | 中2 | 総合的な学習の時間 | ジェンダー人権尊重教育「いろいろな性ってなんだろう」 | ジェンダーについての理解から生徒一人ひとりのいのちの大切さに考える授業を行った。性の多様性を知ることによって「自分らしく生きる」こととはどんなことなのか、一人ひとりが考えを深めた。他者を尊重し、「生きる」ことに対して様々な視点で命の大切さについて触れる機会をもつことで生徒たちにとって自分自身のいのち、他者との共生について考えを深めるような発言や表情があった。 | 養護教諭・学級担任 |
| 4 川崎市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | キャリア在り方生き方教育 | 様々な職種の話や人の話を聴くことを通して、自分や周りの人や好きなこと、関心のあることが多く、職業、仕事、生き方につながっていることを知ることができた。また、クイズ形式の生徒主体の活動を通して、子どもたち一人ひとりが個性や多様性を認め合い、自分らしく生きる力をはぐくむためのキャリアを育んでいくきっかけとなった。 | ・キーパーソン21の担当者 ・講師による講話 ・クイズ形式の質疑応答 |
| 5 川崎市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 在り方生き方授業「人間愛・思いやり」 | 1985年、日本航空123便墜落事故の出来事を授業の題材として活用しながら、限られた時間の生き方・命の尊さや、家族や他人への愛情・愛のある行動について考え、感謝の気持ちや人間愛を育むことを大切にした授業を実践した。授業を通して、普段感謝の気持ちを伝える機会が少なかった家族や仲間に対して感謝の気持ちをまとめることができた。また、命の尊さや自分自身の生き方について見直しながら今後の生活に活かしていこうとする様子が見られた。 | 資料 「日本航空123便、墜落まで」 「生き残った方々の証言」 「遺族から提供していただいた遺書や記録」 |

| | | | | | | |
|----|-----|-----|-----------|---------------------------------|--|--|
| 6 | 川崎市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | SOSの出し方・受け止め方教育 「自分の心を見つめよう」 | 自分自身の心について見つめながら、好きなことや熱中していることなどレジリエンスについて気付かせ、誰もが悩みや不安な気持ち、心の痛みを抱えたり抱え込んでいる経験があるということに気付かせた。人の悩みや心の痛みについて共に考えながら、自他に対する思いやりの心を育むことができた。そして、一人で抱え込まずSOSを出すことの大切さを伝えることができた。 | 資料 川崎市教育委員会 「SOSの出し方・受け止め方教育の展開」 全校生徒へ実施 |
| 7 | 川崎市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 | 総合的な学習の時間で、地域の「防災」について学習した。いつどのような災害が起こるか分からない中、私たちが身を守るために普段からできることや、いざという時に利用できる施設・設備等を調べ学習する。 生徒たちは、災害に備えてどのようなことができるか、考えることができた。また、立川防災館へ出向き、実際の災害を疑似体験することができた。 | 立川防災館 |
| 8 | 川崎市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 「災害図上訓練」 | 地域と防災への関心を高めるために行った。DIGには「掘り起こす」「探求する」「理解する」という意味があり、「防災意識を掘り返す」「地域を探求する」「災害を理解する」といった意味が込められていることを学習した。実際に班ごとに分かれてDIGを行い、地域において現実的に注意すべき場所を認識し、災害時の適切な行動を考えることができた。また、学習を通して地域の防災に関わる方々との交流を深めることができた。そのことで、いざという時のコミュニケーションを円滑にすることができるようになった。 | 講師は中原消防署防災支援係の職員と消防団の方々。 |
| 9 | 川崎市 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 防災学習 校外学習 東京の歴史・復興 | 4月から6月の東京校外学習に向け、防災学習の中で命の大切さについて学び、校外学習の内容を深めた。 NHK for School 学ぼう防災「地球の声を聞こう～地球は生きている」視聴～班で話し合い学習。 「地球の声を聞こう～地震はなぜ起こるの」視聴～神奈川に起きた災害・規模、災害予想～班で話し合い学習。 「子どもたちの未来を守りたい～防災教育 川田のどかさん」視聴～班で話し合い学習。 「横網町公園・本所防災館調べ」東京の空襲や震災の歴史・防災について調べ、校外学習の事前学習とした。 | 使用した道具 教員 GIGA端末、モニター 生徒 GIGA端末、ワークシート |
| 10 | 川崎市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災学習 「災害から命を守る」 | 防災意識を高めるため、学習教材や資料などを区役所から借用し、災害時の自分たちの行動を考えるためのグループワークを行った。グループワークの中で普段から意識できることを再確認する姿が見られた。またDIGとHUGを2回に分けて実施し、防災と被災対応の両面から、いのちを大切にしている行動について学びを深めた。 | 講師は、防災・避難所生活に詳しい区役所・消防署の職員。 (資料) ・防災駅伝 ・クロスロード ・KAWAHUG等 |
| 11 | 川崎市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災訓練 | 地震を想定した避難訓練を実施した。緊急地震速報が発令されてから、すぐに教室でのシェイクアウト訓練を行い、その後、避難経路を確認しながらクラスごとにグラウンドに避難をした。 避難後に防災についての講演会を行い、生徒の感想には、「大きな地震がいつ起こるか分からないので自分の命をしっかりと守れるようにしたい」「日頃から災害に向けて備えをしておきたい」といったことが多く書かれていた。「災害は日常の延長にある」ということを一人一人が意識し、防災意識を高める機会にできた。 | トカイナカヴィレッジ 松本傳左衛門農園助役 |

| | | | | | | |
|----|------|-----|-----------|-----------------------|--|--|
| 12 | 相模原市 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 平和じゃなきゃ生きられない | 1年生の時から道徳、総合で学習した「共生心」の内容の集大成として広島への修学旅行を実施した。原爆ドーム見学、ピースボランティアの方の体験談等を聞き、お礼として合唱「ヒロシマの有る国で」を披露した。また折り鶴を作成し、奉納した。 | 合唱「ヒロシマの有る国で」 絵本「折り鶴の旅」 広島平和記念公園冊子 |
| 13 | 相模原市 | 中2 | 総合的な学習の時間 | いのちのはなし | 1 子育て支援センターの紹介 2 健康について（心・からだ・つながり） 3 いのちの始まり（卵・精子、妊娠周期、出産） 4 思春期の心と体（変化について、自分や相手の心と体を大切に、不安との向き合い方） 5 妊娠 出産 中絶 避妊について 6 相談窓口紹介 | 講師 子育て支援センター 保健師 パワポを使用し、体育館で講演会形式 |
| 14 | 相模原市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 人権尊重・生命の尊さ・国際理解 | 暑い時期であることと、感染症予防のため、各クラス1名の代表生徒のみ講師と対面で講話を聞き、他は教室よりMeetで対応した。講師の指示により、詳細な事前学習は行わなかった。初めに「人権とは」を考え、いのち・幸せであること・優しさなど、生きる権利を素直に捉えれば良いことを学んだ。MSFのDVDの映像は衝撃的であり、また、講師の実体験に基づいた話は説得力があった。講話の後、代表生徒から前向きな質問が多数あり、自分が幸せになるためには他人を大切にすることだと気づいたようだった。 | 講師：国際NGO横浜国際人権センター会長 資料：人権問題に関するDVD「愛と正義に生きる－国境なき医師団(MSF)－」 |
| 15 | 相模原市 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 生きるためのこころの健康について | 保健師による妊娠・出産の講話を行った。その中で自分自身の命がどのように始まり、どのように誕生するかを知ることができた。その過程に関わる人々の思いや今ある命がどれほどの奇跡を辿ってきたかを知り、命の大切さを再認識し、自己肯定感を育てるきっかけにした。 | 緑子育て支援センター 保健師 |
| 16 | 相模原市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 国際理解、国際貢献 | ユニセフ協会の方に来校していただき、直接話を聞く機会を設けた。世界には一日一日を命がけで生活せざるを得ない人々が沢山いる現状を理解し、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てた。 | 講演 |
| 17 | 相模原市 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 3学年修学旅行において、広島にて原爆の被爆者より講話を聴いた。6歳で爆心地から3.5キロメートル離れた疎開先で被爆し、3日後に母親を探しに広島市内に入って目にした惨状や、一命を取り留めた母親は、その後数々の癌を併発し若くして亡くなったこと、自身も白血球減少症に悩まされていること等、克明な体験談を聴き、日々健康で安心して生きていけることの尊さについて考える機会となり、平和学習の集大成とすることができた。 | 講師：広島県原爆被害者団体協議会 |
| 18 | 横須賀市 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 東日本大震災から学ぶ「被災地の方々の思い」 | 岩手県大槌町の海を見下ろす丘に置かれた「風の電話」。震災で会えなくなった家族や友人ともう一度言葉を交わしたいと願う人々がここを訪ね、線のつながっていない受話器を通じて「会話」をする。被災した街は復興が進んでいるが、大切な人を失ったことで前に進めずにいる人はまだ多くいる。口に出せない思いを抱えた人たちにとって「風の電話」は大切な支えになっている。私たちにできることは、力を尽くして精いっぱい生きている人の思いや、大切な人を亡くし心に大きな傷を負っている人の気持ちを考え、震災を忘れないこと。修学旅行の事前学習として、「風の電話」の映像を見ながら、被災地の人の思いに寄り添う時間とした。 | NHKスペシャル 『風の電話』 |

| | | | | | | |
|----|------|-----|-----------|---------------------------------|--|--|
| 19 | 横須賀市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 自分の命は自分で守る ～日頃から災害への備え～ | 『災害への備え・災害時の行動』をテーマとし、避難方法・避難場所・家の安全対策・備蓄品・持ち出し品についてchromebookを用いて調べ学習を行った。避難の方法については、2次災害に巻き込まれないためにはどうするのが良いのかを考える生徒も多くいた。また、災害時の行動については、そのとき、自分がどこにいるのか、誰といるのかなど、環境設定を行ったうえで学習に取り組んでいた。 | chromebookを活用 |
| 20 | 横須賀市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 福祉体験 | 横須賀ボランティアセンターのご協力を得て、手話、視覚障害者の誘導法、点字、車いすの操作法、高齢医者の生活体験などを行った。今回の体験を経て、身体不自由者の生活を知ることができた。また、元気に過ごせることがどれほど素晴らしいことか知ることができた。今後、自分たちがどのように生活していくべきか深く考えられた機会となりました。 | よこすかボランティアセンター |
| 21 | 横須賀市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災活動 | 自分たちが住んでいる地域で震災が起こったとき、どういった災害が起こるのか、どこへ避難をするのか、中学生にできることは何なのかを、直接地域の方々から教えていただいた。また実際に防災倉庫の中身を見せてもらい、どのようなものが入っているのか、その使い方を見せていただいた。体力のある中学生として、地域のために何ができるのか、考える姿が見られた。また、地域の方々との繋がりを持つことで、安心して暮らせる町づくりへと繋がった。 | 地域の方々との、学校行事としての取り組み |
| 22 | 横須賀市 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 「災害時に中学生がいかに支援活動に従事するか」 | 東日本大震災が起きた後、海上自衛官として災害派遣活動に従事した経験を基に、当時テレビでは報道されなかった映像等を通して、中学生に知っておいてほしいことをお話しいただいた。もし自分が被災地の被災者になったら、どのように自助・共助をしていくのかを具体的に聞くことができ、自分たちがどのような行動をとるべきかを真剣に考えていた。 | 講師は、元海上自衛官 道徳の時間と総合的な学習の時間の中で震災学習を行い、そのまとめとして講演会をしていただいた。 |
| 23 | 横須賀市 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 薬物乱用防止講座 | 中学2年生を対象に行った講座を実施した。実際に税関職員が来校し、麻薬の恐ろしさや、日本で行われている麻薬取引についての説明を受けた。また、実際に薬物を見つける方法として、麻薬探知犬による実演も見ることができた。事前学習として保健体育の時間に薬物乱用に関する基礎知識を取り扱った。 | 税関職員、事前学習で保健体育の時間に薬物乱用に関する授業 |
| 24 | 横須賀市 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 「災害時の避難所運営を考える」 | 災害時には、学校などの公共施設が避難所として使用されることが多い。そこでの生活を考えるためのアプローチとして、HUG(避難所運営ゲーム)を使用して避難所の運営を考えてみた。与えられた課題に対応するため、グループで話し合い意見交換を行った。その中で、普段何気ないことでも、時と場合または人によって、いのちに関わってくるということを考えることができた。 | 教材：HUG |
| 25 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 交通安全指導教室 | 実際に交通事故を体験した人の話を映像で見たり、警察の方の話を聞く中で、被害者だけでなく加害者になることの再認識や、被害者や加害者だけでなくその家族などにも大きな影響を与えることを学んだ。 | 鎌倉警察署交通安全課 |
| 26 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 水の事故講演会 | 学区や通学路のすぐそばに海があり、生徒も当たり前のように浜辺や海で遊んでいる中で、危険を知りつつ、恐れるだけではなく、上手な付き合い方について話を聞いた。またその場所にあるいろいろな安全の工夫などを学んだ。 | 鎌倉ライフガード |

| | | | | | | |
|----|------|----|-----------|--------------------------------|--|--------------------------------------|
| 27 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 中外製薬プログラム | 中外製薬、鎌倉市役所の協力を仰ぎ、防災グッズを実際に体験して、避難所の生活を体験するプログラム。段ボールベッドや仮設トイレなど、さまざまなストレスにさらされる中で、いかにして協力し、共生して行くべきなのかを考える。障がい者や高齢者、女性などの様々な視点に目を向けて、災害時の支え合いが命の支え合いとなることを学ぶ。また鎌倉市役所の協力のもと、防災備蓄庫の見学をさせてもらい必要な生活物資について熱心な姿勢で考えていた。 | 協力企業 中外製薬 関東学院大学 鎌倉市役所 |
| 28 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 防災マップ作り | 学区の危険箇所、起こりうる災害などをクラスや班で協議し防災マップを作成し、災害時にいかにして協力し、皆で助け合っていくのかを考える。学区内は高齢者の割合が比較的多く中学生が災害時に地域の中心となって活躍することをこの学習から学ぶことができた。また学習発表会を行う中、自分の住んでいる学区以外の事についても熱心な姿勢で考えていた。 | |
| 29 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | デジタルシチズンシップ (人権教育) | <ねらい> ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する <内容> ・ジェンダーって何？ ・元難民と考える平和 ・すべての人に健康と平和を | 1年間を通じた人権教育、自己理解等のプログラム。 講演と事後学習。 |
| 30 | 湘南三浦 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 「防災ポスター作り」 自分と地域を守る | 1年時より行ってきた防災教育の集大成として、自分と自分の周りの人だけでなく、地域の人や地域を訪れている人など、あらゆる人の命を守るための防災ポスターの作成を行い、災害時に様々な視点や立場のより多くの命を守るために自分にできる事は何かを考える事ができた。アドバイザーとして、年間を通してJAXAの方に生徒への講義、助言をいただいた。防災や命を守る意識を持ってもらうために効果的な言葉、効果的なイラストは何かを生徒達は考え、課題解決をしながらポスターを完成させた。完成したポスターは地域の店舗や事業所に依頼し、掲示してもらった。 | 講師 JAXA ADK |
| 31 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 疑似喪失体験プログラム | 関西学院大学の金菱清教授と命のかたりべ高橋匡美さんによるプログラム。高橋さんが東日本大震災の際に体験した家族との別れを聞きながら、自分の大切なものが失われていくことを疑似体験した。災害を自分事としてとらえ、その日、その時、突如として失われる命について考えさせられた。このプログラムを受けて、多くの生徒が失うということがどういうことなのかを感じ、日々の何気ないことがありがたいということに気付けたようである。 | 講師 関西学院大学教授 命のかたりべ |
| 32 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 食育 | 主に朝食の重要性を学んだ。事前アンケートで、市内中学生や本校生徒の朝食を食べる状況を確認し、朝食を食べることは、脳のエネルギー補給だけでなく、体温を上昇させたり、体をつくったり、排便を促す効果もあったりすることなどを学んだ。普段の食事に1品食品を追加するだけで大きく改善されるなど、食事について理解を深めた。 | 小学校から栄養教諭を招聘 |

| | | | | | | |
|----|------|-----|-----------|----------------------|---|--|
| 33 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 多様な性について | からだの性、こころの性、好きになる性やLGBTQについて説明を受け、言葉の意味や内容の理解を深めた。もし、自分のセクシャリティについて相手に伝えたときや、他の人のセクシャリティについて知ったときの受け止め方、その話を本人の同意なく周囲に話してはいけないことなどを学んだ。 | 養護教諭 |
| 34 | 湘南三浦 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災教育「海辺での水難事故から命を守る」 | 水難事故から自らの命を守らせること、海や水辺における活動を安全に楽しむことが出来る力を身につけさせること、専門家による講演を通して海や水辺に関する知識を学び、自ら危険を回避できる判断力を身につけさせることを目的に行った。遊泳禁止区域があること、理由、海水浴場として開かれているところ以外では泳いではいけない理由、ライフセイバーの役割、離岸流（リップカレント）が起きやすい場所やその危険性、沖に流されてしまったときの助けの求め方、対処法などを、生徒たちが自分事として捉えられるような現実的な話、過去の実話などを交えて講演され、生徒たちが今後生きていく上で必要な海辺での知識を有意義に得ることが出来た。 | 【講師】 西浜サーフライフセービングクラブ 【対象】 全校生徒 |
| 35 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 平和教育「平和って何だろう」 | ①平和読書：図書館にある、戦争と平和に関する書籍を週替わりで継続して読む（学年内でローテーションする）。 ②ピースネット：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館による、オンライン被爆体験講話に学年で参加。 ③DVD視聴：視聴後、印象に残ったことをメモし、感想交流。班別に感想を発表し、最後に個人で感想を記述。 ④国語科と連携し、「大人になれなかった弟たちに…」の単元を学習する中で、戦争について知っていることをクラスで共有し、当時の食料事情についても学習した。 | ①「平和文庫」学年分 ②オンライン被爆体験講話 ③「夏服の少女たち」1988、NHK特集より |
| 36 | 湘南三浦 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災学習 | 市民センター、自主防災協議会の協力の下、防災学習の授業を実施した。はじめに、過去に起こった周辺地域での災害事例、今後起こりうる危険な事案などについて学んだ。その後、生徒が居住する地区の自治会の方々と顔合わせを行うとともに、自分が生活をしている地域を実際に歩きながら危険箇所や避難場所、防災備蓄倉庫などの確認をした。さらに、備蓄倉庫内にある物品を運び出したり、実際に使ってみるなどの体験をした。この学習を通して、生徒たちは災害発生時に、自分の身やまわりの人たちを守る役割を担い、地域の一員として自ら行動する意識を高めることができた。 | 1～3年全生徒 市民センター職員 防災会 自治会役員 |
| 37 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 青少年支援フォーラムの事業の一環として「阪神・淡路大震災犠牲者追悼のつどい」にて使用する慰霊ろうそくへのメッセージ書きを行った。はじめに、講師から震災当時の現地の状況やボランティア活動の様子について、映像を交えてご講演いただいた。その後、生徒はろうそくに追悼メッセージや平和を願う気持ちなどを書き、追悼のつどいが行われる会場へ送った。震災当時のことを全く知らない生徒たちには、命の尊さや命を大切にすることを育むきっかけとなった。さらに、平和で平穏な生活のありがたさを感じ、震災を風化させない取組みの意義を学ぶことができた。 | 講師は、震災直後から現地でボランティア活動を行っている夫妻 青少年支援フォーラム役員 |

| | | | | | | |
|----|------|-----|-----------|--------------------------------|--|--|
| 38 | 湘南三浦 | 中 1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育「湘洋巻」を作る | 本校は立地上の特徴から津波災害が想定される。地震発生を具体的に想定し、どのような被害が考えられ、その時々に関心自身がどのような行動を取り、どのような気持ちでいるかを具体的に時間の流れとともに想像し、一連の物語を作る作業を行った。この作業を通して災害をより身近に感じ、「ダンゴ虫のポーズをとった」「混乱した」「避難に備えて荷物を軽くした」といった記述が見え、頭を守る・冷静に判断することの大切さ・被災した他の人々への配慮など、必要かつ重要な行動や注意を具体的に考えることができたようである。 | 学年作成のパワーポイント教材・被災写真資料(熊本地震・能登半島地震等)藤沢市HP(辻堂地区の地震危険度) |
| 39 | 湘南三浦 | 中 2 | 総合的な学習の時間 | 平和教育「被爆した方の講話」 | リモートで現地(長崎)他校(本校)を結び、被爆後の様子や被爆者の体験談をお話いただいた。その後質疑応答を行った。戦争や被爆の事実は知っていても「歴史上の事柄」というイメージが強かったようだ。しかし目の前で起きた惨状が詳細に語られると、戦争・人の死が現実味を持って感じられたようだ。「今を生きる若者に伝えたいことは何か」という質問も出て、「この先、生まれてくる人に私たちが伝えていべきだ」「平和な一日を過ごしていることに感謝の気持ちを持って暮らしたい」と、戦争を語り継ぎ、平和な世界を築くことへの意欲も増したように感じられた。 | 講師は被爆経験を持つ長崎平和祈念館職員の方。 |
| 40 | 湘南三浦 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | いじめ防止講演会 | 講師の紹介を兼ねて、活動についてのDVD(TV番組の録画)を観た後、講演を聴いた。講師の方は、講演の中で「いじめとは、心と体への暴力であり、人を死へと追い詰めることがあります」と静かに語りかけ、実例を話すとともに、音楽をかけたり、教員による詩の朗読を入れたりして、「幸せに自由に生きる権利が、全員にあること」を生徒たちが感じることができるようにし、最後に、加害者・被害者・傍観者の全てが心の中を感想文を書かせた。 | 講師：ジェントルハートプロジェクト 全学年(1~3年) |
| 41 | 湘南三浦 | 中 2 | 総合的な学習の時間 | 震災から命を守る | 講師による災害講話と起震車による震度体験を行った。実際に過去に起こった大地震の揺れを体験することにより、災害発生時に命を守るために大切なこと、また、日頃からの防災に対してどのような心構えが必要なのかについて学び、防災意識の向上を図った。 | 藤沢市役所の危機管理課の方々に講師をしていただいた |
| 42 | 湘南三浦 | 中 2 | 総合的な学習の時間 | 「福祉体験」相手の身になって考え、行動できるようになる | 毎年、2学年において福祉体験を行っている。実際に身体が不自由な人の体験を行うことにより、相手の身になって考え、行動できる生徒を育てようと企画している。今年度も車椅子体験、高齢者疑似体験、アイマスクを利用した体験を行った。実際に様々な体験をすることで、日々の困難さや困り感を体験し、生徒にとっては驚きとともに相手を理解することに繋がった。また、日々の生活の中で、相手の立場に立って考え、行動しようとする姿勢ができた。 | 藤沢市社会福祉協議会職員 車椅子、高齢者疑似体験装具、アイマスクを利用 |
| 43 | 湘南三浦 | 中 3 | 総合的な学習の時間 | 「平和教育」語り部さんの話を通して、平和・命の大切さを考える | 修学旅行で広島平和記念公園を訪れ、班ごとに語り部さんから当時の体験や戦争の悲しさ、平和の大切さ、いのちの尊さを話してもらった。生徒たちにとっては、原爆ドームを映像等で目にすることや、ニュース等で話を聞くことはあったと思われるが、実際に体験された人から生の話を聞くことで、いのちの大切さや平和の大切さを実感し、自分たちが今できることを考えるきっかけとなった。 | 広島平和記念資料館 被爆体験伝承者による話 |

| | | | | | | |
|----|------|-----|-----------|-----------|---|---|
| 44 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 平和学習として、講師による講演会を行った。11月には平和記念館へ校外学習に行き、実際の資料などを見る機会を設けた。そこで得た知識をもとに、平和に関するテーマを班ごとに決め、学年発表を行った。生徒たちは、「平和」という概念から考え、人権や戦争に関わることなど広い範囲で平和を考えることができた。また、発表後にもDVDの鑑賞や命の授業として講演を聞くことで、さらに平和への意識を高めることができた。 | <校外学習> 川崎市平和館 明治大学平和教育登戸研究所資料館 <平和講演会講師> 画家 川崎市平和館専門調査員 |
| 45 | 湘南三浦 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 性の健康教育 | 特別支援学級においてリアライズYOKOHAMA代表を講師としてお招きし「性の健康教育」を実施した。「こころとからだの健康教育」～幸せな人生を生きるために必要なこと～というテーマで、1時間にわたり生徒18名、保護者7名、職員・介助員7名に対してお話をいただいた。女性の体、男性の体の仕組みや働きについて、心も体も大切にすることが、幸せな人生を生きるために必要なことだと教えて頂いた。 | 講師はリアライズYOKOHAMA代表 |
| 46 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館ピースネットとリモートでつないで被爆者の講話を聴き、平和について考えを深める。 | 1年生も同時に実施 |
| 47 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 戦争や紛争に関する資料を通して、戦争の残酷さや凄惨さを学んだ。また、事実の理解に留まらず、今後の平和を守るために自分たちにできることを考えた。難しいテーマに対し、自分なりの考えを伝えながら生徒は話し合いを行った。今回の平和学習を通して、平和に暮らせることの有り難さや、戦時下に生きた人々の思いをつないでいくことの大切さを学んだ。さらに生徒からは、周りに流されずに、常に自問自答しながら生きていきたいというような振り返りも見られた。 | 当時の様子が分かる動画を視聴することで、具体的なイメージをつかめた。 (参考) NHK for school 「学徒出陣」 「働く子どもたち」 |
| 48 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 交通安全教室 | 市内には道幅の狭い箇所や見通しの悪い箇所も多く、自転車に乗った中学生が怪我をするだけでなく、歩行者に怪我を負わせてしまう事例も多く発生している。交通事故の被害者にも加害者にもなりうることの恐ろしさや、具体的な交通ルール・マナー等を、映像や体験を交えながら学ぶことで、交通マナーについて自分事として捉え考えた。 | 警察官・市役所職員 |
| 49 | 湘南三浦 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 平和学習のまとめとして、「自分なりの平和に対する考え」をタブレットを活用しながら1・2年生へ発表した。前年度より様々な方法で平和について学び、3年次修学旅行で訪れた広島で考えを深めた。平和学習の目的として「平和にどう関わっていくか」を自分なりに考え伝えることができるように学習を進めた。生徒一人ひとりが、それぞれの視点で平和について考え、自分の言葉で後輩へ伝えることができた。 | 年間計画として、NHKスペシャルDVDの活用 (佐々木禎子さん)、広島派遣の被爆体験記朗読会、文化庁事業の演劇鑑賞等 |
| 50 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 | 身近な災害・緊急事態の実態を聞き、消防隊の仕事や現状を理解しながら、災害についての学びを深めた。消火器を実際に見せながら、消火器の使い方も確認した。グループになって避難時に必要なもの・役に立つものを考え、意見を述べ合い、講師の方の説明も交えながら身近なところで身を守る方法があることを知った。また、学校は広域避難場所に指定されていて、自分の命を守ること、地域の人と協力すること、助け合うことの大切さ・命の大切さを学んだ。 | 茅ヶ崎市消防署 |
| 51 | 湘南三浦 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 平和について考える | 広島・京都の修学旅行で広島の平和公園を見学することと併せて、平和学習を行った。平和公園の碑巡りや原爆ドームの見学の印象、夏休みの広島、長崎の原爆や終戦の新聞記事やニュースを受けて、平和について考えたことを作文にまとめ、クラスの中で発表した。 | 新聞記事、ニュース |

| | | | | | | |
|----|------|----|-----------|---------------------|--|---|
| 52 | 湘南三浦 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 救命講習 | 消防指導課の方に来ていただき、負傷者発見時の対応や、AEDの使い方等について教えていただいた。時期が韓国の梨泰院での事件の直後だったこともあり、自分事として捉えられるような流れをつくり、講習に臨んだ。人工呼吸を行わないことや、心臓マッサージの際に負傷者の口元にタオルをかける等、コロナ禍の中での対応も学習した。自分の家族や、街中でそのような場面に遭遇したときに対応していけるようになりたいという感想を抱いた生徒が多く見られた。 | 茅ヶ崎市消防署 消防指導課3名 |
| 53 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 福祉体験学習 | ①「視覚障がいと点字」についての講演会及び点字作成体験、②車椅子・白杖体験の実施 ①の講演会は今年度も落ち着いた雰囲気講師の話が聞くことができた。視覚障がいをもちた人の立場について深く考えるきっかけとなっている。点字作成体験では、生徒自身が作成した点字を講師に読んでいただくという貴重な体験ができた。 ②の車椅子・白杖体験は、体験をとおして、普段何気なく歩いている通路であっても車椅子や白杖では困難が多いことを感じる事ができた。「誰もが住みやすい環境づくり」について考える貴重な体験となっている。 | 【講師】 三浦市在住の方で、毎年講演と点字指導をお願いしている。 【車椅子・白杖体験】 三浦市社会福祉協議会 |
| 54 | 湘南三浦 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 平和学習 | 「沖縄戦の際、日本で唯一の少年ゲリラ部隊が参加した。14～17歳の少年1000人が訓練を受けて戦った。本土でも、同様の組織が計画されていた。少年たちはどのようにゲリラ兵にされ、どのように戦いを経験したのか。」NHK「あの日、僕らは戦場で」のDVDを視聴し、同年代の少年の体験を通して命の大切さを学んだ。 | NHKティーチャーズ・ライブラリーより当該DVDの貸し出しを受けた。 |
| 55 | 湘南三浦 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 平和教育 | 広島修学旅行に向け学習を重ねることにより、平和の尊さについて学び考えた。(数回実施) 1 「被爆者2世の方による講話」 被爆者2世の方による講話を聴き、命の大切さを学んだ。 2 広島平和記念公園でのボランティアによる解説と平和記念資料館の見学を通して、平和と命に関する意識を高めた。 | |
| 56 | 県央 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 「性感染症としてのエイズの理解と予防」 | ねらいは、義務教育を修了する3年生に、中学校3年間の性教育のまとめとして、エイズを中心とした性感染症の理解と予防、これから自分の性とどう向き合っていくかを考えさせる。 体育室で3年生を対象とした講演をしていただいた。内容は、講演会の冒頭でコロナウィルス感染予防の話、その後性感染症の話を実体験をもとにお話していただいた。 生徒は終始興味深く講演を聞き、講演後の感想用紙にも「今後の自分たちの生活に大事なことで非常にわかりやすく教えていただき、勉強になった」という感想が多かった。 | 講師：オフィスいわむろ |
| 57 | 県央 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 赤ちゃんがやってくる | 産休に入る教員から、赤ちゃんについての授業を行った。 事前アンケートをもとに生徒の疑問や質問などにも答える形式を取った。 具体的には、赤ちゃんはどうやってお腹の中に来るのか。なぜ先生は2か月も急に学校を休むことになったのか。なぜ、妊婦に優先席を譲ろうと言われるのか。 | 本校教員 |
| 58 | 県央 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 戦争がなければ平和なの？ | 平和学習の一環で1年次に戦争(第2次世界大戦が人々に与えた影響)について扱っていた。本時では、「戦争がなければ平和なの？」と問いかけ、貧困等の課題を抱える他国の子どもについてのストーリーを読み、感じたことなどをグループで共有した。生徒は、「日本は恵まれていて、この生活は当たり前ではない」、「普通に学校に行けることに感謝したい」などの感想を持っていた。 | |

| | | | | | | |
|----|----|-----|-----------|---------------------------------|---|--|
| 59 | 県央 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 保健指導 助産師が伝える 「いのちの話」 | 受精から出産までの胎児の成長過程を助産師の実体験を交えながらお話しいただいた。生物学的な面からの成長をたどる中で、誕生を心待ちにする親の気持ちや、生まれてくることができなかつた命の話など助産師ならではのエピソードを語っていただくことで「命は大切」ということを心から実感できる内容だった。生徒からは「おかあさんにありがとうと言いたい」「自分も友達もかけがえのない存在だから大切にしたい」などの感想が寄せられ、親への感謝や他者への思いやりの気持ちが芽生えた様子だった。 | 講師は助産師協会から派遣された現役助産師。教材はスライド資料 赤ちゃん人形を抱いて赤ちゃんの重さを実感した。 |
| 60 | 県央 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 人権教育みんなで学ぼう！ ～性の多様性～ | 任意団体の方を講師に招き、性（セクシュアリティ）の切り口から人尊重や多様性についてお話しいただいた。性のあり方は人それぞれで、その価値観に正解不正解はなく、自分らしく生きることが大切だということを学んだ。 | 講師は任意団体代表者。教材はスライド資料。 |
| 61 | 県央 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 福祉学習講演会 | 「福祉を知る」をテーマに講演会を行った。 「共に生きる」ことや「誰もが幸せに暮らせる」ことについて学んだ内容を自分事としてとらえ、実生活に生かそうとする態度を身につけたり、まとめ・表現できる力を身につけたりすることを目的としている。 講師は、2016年の施設で起きた悲惨な事件をもとに、自身が経営するホームの外壁を壊すことを決断された方で「実際の壁を取り払うことで、心の壁を取り払うことができる」という思いの講話をしてもらった。生徒は他者の存在(命の重さ)について学ぶことができた。事前学習と合わせて、「福祉に対するイメージが変わった。」や「将来携わる仕事をしたい。」と感じる生徒がいたようだ。 | 講師は、社会福祉法人愛川舜寿会 常務理事の方。 「ココロのバリアフリーノート」 |
| 62 | 県央 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 卒業する皆さんへ これから生きていく上で大切ないのちの話 | 思春期にあたる中学生の今、性感染症について正しい知識を得るとともに、全ての人の生命を尊重し、自分のこころとからだを守る力を養い、これから社会に出て行く3年生ひとり一人のQOLを高めていけるように意識させる。産婦人科医の先生による講義を行った。 | 産婦人科医 |
| 63 | 県央 | 中2 | 総合的な学習の時間 | 心肺蘇生実技講習会 | 救命方法の基本を理解し、命について改めてその大切さを考える。地域の消防署より救急救命士、消防士を講師として招き、実技を交えて心肺蘇生法を学んだ。 | 座間市消防署北分署より救急救命士、消防士、消防隊、救急隊市役所管理課 |
| 64 | 中 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | いのちの大切さ | いのちの大切さ、尊さ、生きていることのすばらしさを伝えた。 人はそれぞれ自分らしく生きることを求めて努力していくことを知り、自分の将来の生き方についてしっかりと考えた。 | 講師はラジオパーソナリティ、ライター 1, 2年は当日、3年は後日録画で視聴 |
| 65 | 中 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災教育 「火起こし体験」 | 自然災害が起こったときに、主体的・協働的に活動し、自分や家族、仲間を守るための行動が取れるようにするという目的のもと、火起こし体験を行った。5人～6人の班で、最も効果的かつ効率的な火起こしの方法を追求して計画を立て、実際に火を起こし、その火で焼き芋の調理を行った。すべての班が自分たちの力で火起こしを行うことができた。生徒たちは、自分たちで火を起こせたという達成感や、仲間と協働して課題を解決する楽しさを得ることができた。また、災害時には、自らの手で自他のいのちを守るという意識を高めることができた。 | 火起こしの方法については、クロームブックを用いてインターネットで調べた。調べた方法が安全であるかどうかを学年職員がチェックした。 |

| | | | | | | |
|----|----|-----|-----------|---------------------------|---|---|
| 66 | 中 | 中3 | 総合的な学習の時間 | 「自分を大切にすること」と | 山梨大学非常勤講師の先生による「自分を大切にすること」という講演会を視聴した。その中で、生徒たちはエイズに関する正しい知識や中学生に必要な性に関する知識を学ぶことができた。講演後の感想として「自分の命を守ることは相手の命を守ることもあることがわかった」や「命の大切さを心から感じる事ができた」などということを書いてきた。また、講演を視聴した保護者も「性に関することはなかなか家庭では話す機会がないので、学校でこのような講演会を催してくれてとても良かった」という感想を述べていた。 | 講師 山梨大学非常勤講師 健康教育アドバイザー |
| 67 | 県西 | 中複合 | 総合的な学習の時間 | 防災教育「災害が起きたときのために、考えたいこと」 | 災害が起きたときのことを想定し、生徒の防災意識を高めることをねらいとし、自助、公助、共助について、課題を通して学んだ。NHK for school の「どうする？大災害が起きたら」を視聴し、ワークシートや意見交換を通して、自分の防災意識の確認をした。災害が起きて家族と連絡が取れないとき、集合する場所を決めているか、普段から防災セットの確認ができていないか等、災害が起きたときへの備えをどれくらいしているかについても考え、目的の防災意識を高めるとともに、命を守ることの大切さについて学びを深めることができた。 | 全学年、各クラスの担任が授業を進めた。全クラスで防災について考えることができた。 (参考動画) NHK for school 「どうする？大災害が起きたら」 |
| 68 | 県西 | 中1 | 総合的な学習の時間 | 防災学習 | 夏休みの課題として、今自宅で行っている防災対策をまとめさせた。ほとんどの家庭が地震対策であったため、それで十分かどうかを9月からの授業で考えさせた。小田原市のハザードマップを用いて、自分の住んでいる地域の危険性を調べさせると、津波対策も必要であることに気付く生徒が多かった。友人と話し合う中で、対策とは防災グッズを揃えることだけでなく、家族とどのように連絡を取るのか、飼っている動物はどうするのか、大けがした人がいたらどうするのかと、自分のこと以外にも目を向ける様子が見られた。ワークシートには、自分の命は自分で守りつつ、家族や困っている人を助けられる人になりたいという記述が見られた。 | 小田原市のハザードマップ |